

# 言語聴覚ゼミナールⅠ

[演習] 第3学年 後期 必修 1単位

《担当者名》○下村敦司 shimo@hoku-iryo-u.ac.jp 才川悦子 中川賀嗣 橋本竜作 榊原健一 永見慎輔  
福田真二 飯泉智子 葛西聡子 小林健史 前田秀彦 柳田早織 若松千裕 辻村礼央奈

## 【概要】

言語聴覚障害学の各領域（失語・高次脳機能障害、言語発達障害、聴覚障害、発声発語障害、摂食嚥下障害など）のいずれかの領域について、担当教員の指導の下、基礎知識の確認、障害メカニズムの捉え方とともに研究法について学ぶ。

## 【学修目標】

### <一般目標>

言語聴覚療法について専門性を深め、さらに科学的に追及するために、各専門領域に関わる障害の成り立ちや捉え方さらに研究法を説明できる。

### <行動目標>

1. 専門領域に関わる情報を収集できる。
2. 専門領域に関わる情報について議論できる。
3. 科学的なディスカッションができる。

## 【学修内容】

| 回            | テーマ         | 授業内容および学修課題                                                                                                                                                                                        | 担当者   |
|--------------|-------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------|
| 1<br>(<br>15 | 言語聴覚療法研究の理論 | 言語聴覚学全般（失語・高次脳機能障害、言語発達障害、聴覚障害、発声発語障害、摂食嚥下障害など）の中で特に関心のある1領域に関して、担当教員の指導の下でゼミナール形式を取り、文献を読解することを通して、基本的研究方法について学ぶ科目である。文献検索から、講読法、問題意識、方法、実験法、結果の解析法、考察など一連の研究の実際を知り、研究的視点を養うことで、より理論的な臨床能力を身に付ける。 | 全担当教員 |

## 【授業実施形態】

面接授業と遠隔授業の併用

※授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

## 【アクティブ・ラーニング】

導入している

## 【評価方法】

課題 50%、その他（受講態度等） 50%

## 【教科書】

使用しない。

## 【参考書】

各ゼミ担当教員が、適宜紹介する。

## 【備考】

授業に関わる連絡

- ・授業に関わる連絡は、manabaまたはi-Portalを利用する。

## 【学修の準備】

それぞれのゼミ担当教員の指示に従って予習（80分）と復習（80分）を行うこと。

## 【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

（DP6）社会の変化や科学技術の進歩に対応できるよう、常に専門領域の検証と、積極的な自己研鑽および言語聴覚療法科学の開発を実践できる能力を身につけている。

## 【実務経験】

田村至、永見慎輔、飯泉智子、葛西聡子、小林健史、前田秀彦、柳田早織、若松千裕、辻村礼央奈（言語聴覚士）  
中川賀嗣、才川悦子（医師）

橋本竜作（公認心理師）

【実務経験を活かした教育内容】

田村至、永見慎輔、飯泉智子、葛西聡子、小林健史、前田秀彦、柳田早織、若松千裕、辻村礼央奈：医療機関での言語聴覚士としての臨床経験を活かし、言語聴覚障害学の各領域に関する知見や各障害の評価・リハビリテーションについてゼミナールを行う。

中川賀嗣、才川悦子、橋本竜作：医療機関での実務経験とその知識を活かし、ゼミナールを行う。